

(別記様式)

令和4年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した,特色ある教育の創出</p> <p>2 少人数教育により個性を活かし、自ら動き、挑戦し、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、将来を切り拓いていくことができる生徒を育てる。</p> <p>3 地域や大学等との連携により探求を深め、「広い視野と高い理想」「未知への興味・課題解決の創造性」を育てる。</p> <p>4 郷土の自然や文化を学び、地域や京都府を誇りに思い、前向きに地域と係わり貢献しようとする「地域の担い手」「森の担い手」を育てる。</p>	<p>コロナ禍による臨時休業期間もあったが,少人数を活かした個に応じた学習指導,進路指導を進めることができた。予備校サテライト講座,進路講習,模試等を効果的に配分し,新たな入試制度への対策をとった結果,ほとんどの生徒が希望進路を実現できた。</p> <p>・ICT教育を推進し,学習活動等が保障できるよう取り組んだが,教職員研修面や環境整備面が追いつかず,全体の取組とはならなかった。</p> <p>・HPやメール,広報誌,テレビや新聞等による発信を行ったが,本校の魅力を伝える広報活動をさらに工夫し,生徒募集活動と連動させる必要がある。</p> <p>・地元に加え他地域や全国募集による入学生の確保に向けた取組を進めたが,寮整備など,更なる条件整備を行う必要がある。</p> <p>・行事の精選・会議の効率化など,働き方改革を推進しているが,本校の特色ある教育活動を損なうことなく一層の進展を図る必要がある。</p> <p>・小規模校の部活動の新たな取り組みとしてフリースポーツクラブの在り方や全国大会で活躍できる部活動の充実を探っており,モデルケースとなるよう,引き続き内容の検討を進める必要がある。</p>	<p>1 スクールポリシーを明確化し、地域連携や高大連携等を深め、更なる学校の特色化に取り組む。</p> <p>2 新学習指導要領の実施やICT教育の推進のため、本校に適した方策を研究し,教職員研修の充実を図る。</p> <p>3 多様な生徒や進路希望に対し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導とともに、地域や大学等との連携により探究を深め、自ら考え、動き、解決しようとする機会を増し進路実現に繋げる。</p> <p>4 本校や地域の発展にも繋がる「SDGs」を教育活動の中心に捉え、学校運営協議会による地元幼小中学校や行政・地域団体等との連携を進め、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を更に推進する。</p> <p>5 学科、カリキュラム、学校行事、特別活動、部活動などの特色ある教育活動について、積極的な情報発信を行い,組織的,効果的な生徒募集につなげる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学校活性化の推進	専門学科「京都フォレスト科」の教育内容の充実	A	A	長年の課題であった、京都フォレスト科の実習棟機械更新が順調に進み、地域連携や高大連携等の取り組みも積極的に取り組めた。働き方改革も多くの教職員が意識的に改善に取り組めたが学校全体のものとはならなかった。業務の平準化が課題である。年度途中ではあったがICT教育推進準備室の立ち上げにより課題解決に向け教職員の協力を得て取り組むことができた。
		生徒募集に係る諸制度と校内体制の見直し	B		
		地域連携や大学等との連携による特色化と深い学びの充実	A		
	「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営	校内各種会議の機能的運営	B	B	
		分掌間・教科間・学科間等,教職員間の連携強化	B		
	働き方改革の推進	退勤時間を意識した業務の効率化・合理化	A	A	
	教職員研修の充実	ICT教育関連の研究と教職員研修の充実	B	A	
初任者研修を核とした「学び合う集団」づくり		A			
地域や大学・関連機関等との更なる連携促進		A			
教育課程の編成と実施	教育課程の編成と生徒・保護者・地域のニーズと期待に応じた教育課程の編成・再考と実施	新学習指導要領の運用と同時に、教科主任会議を中心に課題、修正点の把握に努め、次年度の実施教育課程の編成に活かす。	B		教科主任会議で連携と議論を重ね、新課程初年度の運用と令和5年度実施教育課程の編成に努めた。次年度も新課程運用と同時に課題、修正点の把握に努め、令和6年度教育課程の編成に活かす。
学習指導	生徒の学習意欲の向上	教師が生徒と共有する時間確保のために、主管会議の精選・教育環境の整備・教育計画の工夫と実現。	B	B	
		知的好奇心をくすぐる授業と家庭学習の相乗効果で実力をつける学習活動の展開。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
総務企画	学校経営計画及び年間指導計画に基づいて展開する教育活動の記録と広報	特色ある教育活動と生徒の姿を記録し、広く地域社会に発信する。また、次年度に向けて、両学科統合・複数年仕様版学校案内の仕様を検討する。	A	B	B	<p>両学科統合・複数年仕様版『令和5年度学校案内』発行に向けて概ね準備を終えた。内容は継続性を持たせつつ、印刷費用を半減し、他項目として在校生に還元できる見通しである。</p> <p>一方、進学実績や部活動の取組、学力向上システムの成果は、高いレベルで安定しているにも関わらず、地元中学校からの進学率が伸び悩み、加えて、口丹通学圏以外・他府県からの希望者数についても、入寮定員の関係で受検者増には繋げることができなかった。</p>
	令和5年度入学生の定員充足率75%、美山中学校・京都京北小中学校からの進学率80%達成	説明会、中学校訪問、個別進路相談、広報物の発行を計画的、効果的、効率的に行い、進路指導の一助となる情報提供を積極的に行う。	B			
	京都フォレスト科・普通科の特色ある学び、地域社会・大学等と協働した学びを融合させた学力向上システムの構築	両学科・各教科・領域、校務分掌、それぞれが展開する教育活動を、生徒の学力伸長と地域コミュニティの活性化の視点で融合するようコーディネートを行う。	B			
人権教育	生徒の人権意識の向上	生徒の実態に即した人権教育の実施と人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成	A	B	<p>特設人権HRを各学年とも年間2回実施することができた。さらに、全学年の生徒、保護者、教職員対象に人権講演会を1回開催できた。人権学習後の感想文は、自分の生き方についてしっかり考えられたものが多かった。これからの行動に繋がればと期待する。教職員研修は、「同和教育の成果と手法について」をテーマに実施した。</p>	
	分掌、特に学年との連携を密にする教職員研修の充実	各学年の課題に対する適切な対応	B			
		教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進	B			
進路指導	3年間を見通した進路指導を推進する中で、自ら考え、動き、解決しようとする機会を増し、進路意識を喚起して、自ら進路を切り拓く力を育成する。	担任団、各教科と連携し、多様な生徒一人ひとりの適性・能力を的確に把握し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導を通して、希望進路の実現のための学力・能力の向上を図る。	A	A	<p>生徒一人ひとりの話をしっかりと聴き、生徒自身が自分と向き合い、将来についてしっかり考えさせた上で進路を決定していくことができた。</p> <p>1・2年については、担任団と連携し、創意工夫をしながら次年度を見据えた進路指導ができた。</p> <p>進路かわら版の定期的な発行や、保護者向けの進路講演会の実施・保護者向けの「進路だより」の発行などができた。</p>	
		進学講習・サテライト講座・模擬試験等を活用し、学ぶ姿勢を定着させ、学力の向上を図る。	A			
		保護者向け進路講演会・進路説明会・進路かわら版等を通して情報提供の充実を図る。	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成	「挨拶」「正しい言葉遣い」「身だしなみを整える」等当たり前のことが当たり前に行えるようにする。	A	A	A	立ち番や服装頭髪点検を実施し頭髪や身だしなみ等極端に乱れることはなかった。数件トラブルや問題行動があったが、指導後は落ち着いた学校生活を送れている。また担任と連携し問題行動の未然防止に取り組めた。生徒会で自転車安全利用推進員講習を受講したが、啓発活動までは行えなかった。
		SNS等でのトラブルを防げるよう様々な場面で啓発を行う。	A			
		いじめ・嫌がらせを許さない好ましい人間関係の育成を図り、家庭・関係機関とも連携し、問題行動の未然防止と全教職員で一致した指導を行う。	B			
	安全教育の徹底	定期的な交通安全指導に加え生徒会とともに交通安全を推進できるようにする。	B			
特別活動	生徒会活動と部活動の充実	学校祭や行事だけでなく日常の学校生活でも生徒会が主体的に活動できるようにする。	B	B	B	行事は生徒会が主体的に活動できたが、行事以外の活動があまりできなかった。フリースポーツは定着し順調に活動できた。
		フリースポーツクラブが今後も継続・発展出来るよう活動の方法等を検討する。	A			
健康・安全教育	保健管理、保険教育の充実	新型コロナウイルス感染症対策予防対策としてマスク着用、消毒、黙食、換気、健康チェックの徹底を図る。	B	B	B	Co2モニターの全室設置を実現した。AED講習会はコロナ禍のため実施できなかった。ワックスがけや委員会による清掃点検を本年度から実施できた。医療機関の受診率は向上の余地がある。
		各種健診結果により、生徒への医療機関受診を促進する。	B			
		薬物乱用防止教育や性教育を実施し、生徒の意識向上を図る。	B			
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実	生徒の状況把握を徹底し、担任団とも連携し情報の共有を図り、個々の生徒への適切な指導と支援に努める。	A	A		
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	規則や、公共の場におけるマナーを守る態度の育成	B	B	B	授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねルールやマナーに関して大きな問題はなかったが、相手の気持ちを考えない言動が見られるところは課題として継続的に指導を行いたい。
	愛情を持って人に接する人間性の養成	各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
家庭・地域との連携 (PTA)	保護者・地域との連携のより一層の強化	地域から注目され、信頼を得られる「地域創生推進校」を目指し、地域やPTAと連携した魅力ある学校づくりを行う。	A	A	A	コロナ禍の中であったが、会議やイベントをほぼ予定通り開催、実施する事ができた。文化祭、耐久走での食品提供も実施することができた。「PTAだより」については年3回の発行PTAメールについては毎週1回の配信を行うことができた。地域への一定の広報活動はできたと考える。
	地域への積極的な広報活動の展開	「PTAだより」・PTAメール等の広報発信を行い、「みがく、かがやく。」の実践を発信する。	A			
学校図書館	図書・電子資料の適切な活用力の醸成、著作権意識の向上・豊かな読書生活への助長	・紙面・ホームページ等を通じた情報発信 ・資料の適切な利用促進 ・読書活動の推進、読解力向上のための読書推進	A B A	A	B	紙面・HPを活用して、通年図書館だよりを配信することができた。企画展示やイベント等により、様々なジャンルの資料の読書推進をすることができた。各教科・地域資料の収集が今後の課題である。
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	・地域の特色である林業を中心に、地域に関わる資料の収集、展示	B			
農場部	「SDGs」持続可能型社会や組織の構築を目指し目標を実現させる教育活動を実践する。	・産学官連携した教育活動の実践	A	A	A	生徒1人1人に向き合い、自己実現に向けた学習・生活・部活指導等、計画的、継続的な指導を心掛けた。連携事業については相互理解に基づく教育目的を果たせた。機械更新に合わせ、それぞれの特性を踏まえた細かな安全管理、危機対応マニュアル作成は今後の課題である。
		・提携校（府立大学、府立林業大学校）との連携事業の強化	A			
		・職業教育カリキュラムマネジメントの実践	B			
	京都フォレスト科の立地条件や環境・施設・設備等を十分に活かせる教育活動の実践する。	・地域環境・地域資源を活かした教育活動の実践	A	A		
		・知識や技術の向上を目指した研修会の実施	A			
		・安全マニュアルの作成	B			
生徒・保護者・地域・社会等の京都フォレスト科に対するニーズと期待に応える教育活動を実践する。	・適時、適切な全体指導と個別指導の実践	A	A			
	・資格取得の奨励と対策講座の実践	B				
寮務部	安心で信頼され、円滑な寮生活を送るためのルールや規則の徹底	寮生徒とのコミュニケーションを充実させ、信頼される人間関係を構築し、きめ細やかな生活指導による規則の遵守	B	B	B	コロナ感染症の感染拡大を未然に防止することができた。全体的には規則・ルールは守れたが生活習慣の向上が必要である。設備の修繕は進んだが、急速な老朽化が進んでいるため設備更新が課題である。
	安全衛生と快適な生活環境の確保及び施設の充実	ひとりひとりが健康維持・増進と安全衛生の確保に勤め、施設・設備の点検と改善による快適な生活環境の確保	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
事務部	安心安全で明るい教育環境づくり	校内老朽設備、危険箇所等を中心に更新、改修を実施し、明るく快適な環境づくりにつとめる。	B	A	A	教室照明のLED化については、実習教室を除きほぼ全教室完了した。体育館を含め、今後の課題として継続して進める。 トイレの自動水栓設置、保健相談室のエアコン設置等感染対策予算を利用して多くの課題が解決できた。
		感染対策を中心にした、施設設備の充実	A			
第1学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成に努める	授業を受けるのに適した、落ち着いた学習環境を確保する。	A	B	B	多くの生徒が学習と部活動等を両立し有意義な学校生活を送ることができている。タブレット端末が導入されるにあたっての体制を整えることに尽力した。現状、生徒は概ね順調に学習や学校生活に活用することができている。タブレット端末を含む貴重品の自己管理については継続した指導が必要である。また支援を要する生徒について教科担当者会議や教育相談会議を通して学校全体に情報を共有し、対応することを継続していきたい。
		服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてのふさわしい態度、および自己と他者の双方を尊重する規範意識を育成する。	B			
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加を促す	基礎学力の向上のため、家庭学習習慣の定着を図る。	B	B		
		部活動への積極的加入を促す。学習と部活動との両立をはかるため、分掌・教科・地域・家庭との連携を強化する。	A			
		支援を要する生徒の情報を共有し、保健部と連携して適切な支援をする。	B			
第2学年	適切な生活習慣を確立し、規律意識及び社会人としてふさわしい態度を育成する	学校生活を通して規範意識を高め、言葉遣いや服装など、高校生としてふさわしい態度の育成を行う	B	A	B	2年生になり落ち着いた態度で学習に臨めるようになったが、服装や普段の行動で注意される生徒も若干名存在するため、引き続き指導する必要がある。研修旅行や文化祭などの行事を通して、他者と協力して目標のために努力をする態度を養うことができた。授業に真剣に取り組み、自己を高めようとする生徒が増えたが、提出物のない生徒も一定数いるため、粘り強く指導する必要がある。必要に応じて面談を行い、志望理由書を書くことで進路について考える機会を多く持つことができた。
		学校行事を通して仲間意識を向上させ、学校の中核を担う学年としてリーダーシップや協調性を育成する	A			
	それぞれの進路実現に向けて、意欲的に学習や部活動に向かう態度を育てる	授業規律を確保し、家庭学習を習慣化することによって学習意欲を向上させる	B	B		
		具体的な進路目標を設定し、適切な時期に面談を行うことで、希望進路を具体化し、進路実現への助言等を行う	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第3学年	希望進路実現に向けた指導の充実	日々の授業を基本とし、平常補習、サテライト学習を積極的に活用し確かな学力の育成を図る。また、家庭学習の定着を図り、希望進路実現につなげる。	B		希望進路実現を目標に、日々の学校生活で授業や補習に取り組み、希望する進学・就職先へむけた取り組みができた。最後まで粘り、進路開拓を実現できた。3年間コロナ禍で、活動制限があったが、工夫を凝らし、学校生活に取り組むことができた。学校行事においても最高学年として学校をまとめることができた。
	社会人基礎力の向上	学校生活や行事等を通じて、仲間意識の向上やリーダーシップ、協調性の伸張、他人を思いやる心の育成を図る。	A	A	
		自身の行動に対する責任と自覚を促すとともに、凡事徹底を普段から心がける指導を行い、社会人基礎力の向上を図る。	A		

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	学習習慣を確立による基礎学力の定着と生徒の興味関心を引き出す授業を目指す	計画的,継続的な小テストや課題への取り組みを通じた、基礎的言語力の向上。	A	A	B	週末や長期休暇で課題を課し、小テスト等で定着度を測る取り組みを継続的に行うことで基礎的言語力の向上に努めた。また、外部講師と連携した体験事業を行うなど、日々の授業内容を広げ深める取り組みにも力を入れた。進路実現に向けた実践的な力の養成を視野に入れ、授業で書くこと、話すことの指導に積極的に取り組んだ。特に第3学年に対する個別指導に力を入れ、希望進路実現のための大きな支援を行った。
		授業での学びを広げ深める、外部講師と連携した取組の実施	A			
		ICTの効果的な活用による学びの意欲と理解の向上	B			
	実生活で生きてはたらく論理的思考と表現力の育成と希望進路実現の支援	主体的な言語活動を通じた表現力の養成	B	B		
		進路実現につながる書くこと、話すことの指導	A			
		各種コンクールへの参加	B			
地歴・公民科	歴史、地理、公民各科目において、現代社会とのつながりを意識した授業展開を行い、主権者としての意識高揚をはかる。特に、『公共』『地理総合』について、新学習指導要領の趣旨に基づいた授業展開を創意工夫する。	「教科書をじっくり読んで、アンダーライン」「板書を写すだけでなく、メモの追記」を徹底し、社会の仕組みに関する知識理解を深化させる。	B	B	B	授業では、知識・理解、資料解釈を、長期休業期間に小論文・レポートを課すことで思考力・表現力を磨く機会とした。結果、主権者教育に関するコンクールにおいて上位入賞者を複数出せた。また、授業・進学補習・予備校サテライト講座をベストミックスさせた学力向上システムを安定的に運営できた。
		主題を設定し、情報を調べたり、資料解釈したり、まとめたり、表現する学習活動を通して、賛否の分かれる社会事象について最善解を考える授業展開を創意工夫する。	B			
		各公益団体、大学等が主催する主権者教育、地域創生分野の小論文コンクールに積極的に応募し、上位入選を目指す。	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、新たな大学入試制度への対応を図り、希望進路実現へと導く	多様な生徒の実態に応じ、放課後等の適切な補充指導の実施	A	B	B	補習については、生徒の実情に合わせて指導することで、最大限の効果を狙うことができた。iPad等のICT機器を活用することで、授業及び家庭学習の効率化を図ることができた。
		定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着	B			
		進路希望に合わせた応用力の充実を推進	B			
		予備校サテライト講座と併せて進学補習の充実	A			
理科	生徒の興味関心を引き出す授業の工夫をすることにより、基礎学力の定着並びに科学的思考の育成をはかる。	各分野の特性、生徒の状況に応じて、ICT教材・動画・プリントなど教材の効果的な使用により、生徒の興味関心を引き出し、基礎学力の定着を目指す。	A	B	B	各教科・講座の学習内容や生徒の状況により、学びなおしの内容を取り入れ、基礎力の定着をはかった。また、ICTを活用した授業や実験・観察なども積極的に行うことができた。
		計画的な観察・実験を通して、生徒の学習意欲を向上させ、科学的思考力を育成する。	B			
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	様々な種目において全教員でICTを活用し運動技能の向上に取り組む	B	B	A	理論でパワーポイントを使用したり実技でも動画の撮影等でICTを活用したが運動技能の向上とまではいかなかった。今年度、保健ではあまり活用できなかったため次年度以降の課題である。どの講座においても生徒が協力して授業に取り組み特に3年のグループ学習では主体的・対話的に取り組むことができリーダー中心に深い学びができた。
		保健の授業において調べ学習等でICTを活用して現代的な健康課題を発見し、健康のために適切な方法を選択・決定できるようにする	B			
	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を行い、運動の楽しさや喜びを味わうと共に、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につけさせる	仲間とコミュニケーションを取り、協力しながら行うことで楽しさや喜びを味わう	A	A		
		グループ学習で主体的・対話的に取り組むことによるリーダーシップ・フォロワーシップの育成	A			
		健康運動では地域の資源を活用し、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践出来る力を育成する	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
芸術科	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	芸術表現の基本技術の習得	B	B	B	机間巡視を大切に、個々のニーズに則した指導ができた。前年度の優秀作品を常時展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。
		芸術作品の基本的な鑑賞力の育成	B			
		芸術を愛好する気持ちの育成	A			
		一人一人と向き合い、創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画	B			
英語科	多様な生徒の実態や進路希望に応じた学力の育成	基礎学力の向上を目指し、「予習⇒授業⇒復習」の学習サイクルの確立させるような指導や小テストを実施	B	B	B	希望進路の多様化を受け、サテライト講座の内容の見直しや進学講習の開講講座数の拡充を行い、生徒の進路実現につなげることができた。 実用英語技能検定に合格に向け、自由英作文や面接の対策を個別に何度も行い、CEFRレベルA2以上の資格保持者が増加した。年間を通じた指導内容や指導計画の見直しを行い、AETを活用する時間をより多く捻出し、発信力向上を目指した活動を増加させていくことが、次年度に向けた課題である。
		大学入試に対応できる学力の育成を目指した、予備校サテライト講座の活用や進学補習の実施	A			
	新学習指導要領で示されている指導目標「4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）」の育成に向けた指導の推進	生徒の英語での発信力向上を目的とした、AETの積極的な活用	B	B		
		4技能を測定可能な実用英語技能検定やGTECを校内で実施し、CEFRレベルA2以上の資格（英検準2級以上）やスコア（GTECスコア 690以上）の取得に向けた指導の推進	A			
家庭科	自らの生活課題を解決するために、主体的に生活を創造しようとする実践的な態度を育成する	主体的に生きるために必要な知識と技術を身に付けるための課題を工夫する。	B	B	A	保育所や保健師と連携した子育て学習に取り組むことができた。感染症予防のため高齢者福祉施設での実習は実施できなかったが脳トレクイズ等の制作物を通して学習成果を地域福祉に役立てることができた。引き続き生活課題解決能力の育成を目標にし、生徒が主体的な活動を大切にする工夫をしたい。
		課題解決的な学習を通して生徒一人ひとりの達成感に繋げる。	B			
		デジタル機器等を効果的に活用した教材を工夫する。	A			
	地域の人々との交流の機会や生活文化の継承、持続可能な消費生活・環境について学習する機会を充実させる	様々な事業を活用して、地域と連携した実践的な学習機会を多く設定する。	A	A		
実物に触れる体験を通して具体的に学ぶ機会を設定する。		A				
情報科	魅力ある教材の作成情報の科学的理解	生徒に応じた教材の選定（研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど）	B	B	B	研修旅行の事前・事後学習や図書館と連携した「本の紹介」など、学校行事や学校施設を有効活用した。情報セキュリティの標語を応募した。
		情報モラルやセキュリティ、最新機器に関する事例による理解の深化	B			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
農業科(京都フォレスト科)	林業に関する最新の知識や技術の習得を目指すと共に、京都フォレスト科が持ち得る特性を活かした教育活動を実践する。	演習林や木材加工棟での実習を充実させる。	A	A	A	・機械更新され新型機械を使用した実習を心掛けた。今後、機械の性能を十分発揮させられるように今以上、教員のスキルアップに励む。・実学に基づいた山林管理、委託実習の実践で、目的とする教育効果の増大に加え、収益実習としても効果を上げ、産業の魅力を体験させた。
		林業における最新の知識や技術の向上を目指し、実学に基づいた経験、体験を実践する。	A			
		職業教育、産業教育を通して、社会で必要とされる人材の育成を目指す。	A	A		
総合的な探究の時間(1年)	地域社会の課題を自らの課題として捉え、周り人々と協力しながら最善解を求めていく生き方を考える。また、授業で考察した内容を研究レポートや英作文としてまとめ、スピーチを通して伝える力を養う。	第1学期(知識・理解)、第2学期(体験及び研究レポートの作成)、第3学期(要旨発表または英作文によるレポート及び口頭試問)という年間指導計画を実践する。	B	B	B	本校の特色である「地域と共に育む、学力向上システム」の基盤学習と位置づける本領域においては、他校の模範となる水準まで到達しており、視察や授業公開などを実施した。次年度、小論文&論旨発表、英作文&口頭試問の質的向上と『withコロナ』を意識した授業改善にさらに務める。
		講義及び体験学習を通して、自らが興味を持った内容について、研究レポートとしてまとめ要旨発表を行う。(キャリアデザインコース)	B			
		第2学期の体験学習を通して感じたことや印象に残ったことを英作文でレポートする。その後、英語指導助手に対し、要旨説明及び説明に対する質問に応答する。(文理探究コース)	B			
総合的な探究の時間(2年)	異文化理解を深化させながら、知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力の養成	生活の中で学んだことや感じたことを、生徒同士で相互に伝え合う活動の実施	B	B	B	毎時間AETを活用し、異文化について理解する機会を十分に確保できた。生徒が自分が感じ、学んだことを発信できる機会を今年度より多く確保できるよう、次年度に向け改善する余地がある。
		異文化理解の促進目的とした、AETの積極的な活用	A			
総合的な探究の時間(3年)	地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め、地域の魅力を発信することによってコミュニケーション能力や情報を取捨選択してまとめる力、表現力の育成をめざす。異文化理解を深化させながら、知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力の養成	地域に発信、提案するプランを作成する事で学習への意欲を向上させる。	B	B	B	地域活性化に向けた課題を見つけ、その解決のためのプランを提案できた。
		実際にプレゼンテーションをすることによる、表現力の向上。	A			

<p>学校運営協議会による評価</p>	<p>学校活性化構想から6年経ち部活の活躍や予備校サテライト講座も定着し進路実績につながってきている成果がよくわかる。小規模な学校の在り方、コミュニティスクールとしての先進的な取り組みがマスコミで多く取り上げられ部活、進路補習等様々な取り組みで結果を出してもらっているがスクラップ&ビルドで特色化を明確にし北桑田で学びたい子供を募集することが重要である。少子化、過疎化により地元の子供が急速に減る一方、入寮希望生徒が自宅生を上回るほどの進学希望者があるにもかかわらず寮の定員が1学年15名と少なく、結果として大幅な定員割れとなっている。寮の改築が検討段階に入っているので一年でも早く実現してほしい。また、一部の部活やクラスでトラブルや不満が独り歩きし地元中学生や保護者からネガティブな評価を受けているという評判を聞くことがあり残念である。ICT活用や適切な情報発信により学校と地域がつながるライブ的な情報発信に期待したい。北桑田地域の全集落で学校後援会の会費徴収をお世話になっているところであるが、人口減、高齢化で集金が難しくなっている。今後、学校の部活支援等が困難になる可能性があるため後援会の在り方を議論するべきである。今後、地域貢献がどのような形でできるのか運営協議会の委員としてどう関わられるか積極的に意見交換したい。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>新学習指導要領による教育課程、評価基準の策定、タブレットの導入、ICT活用の取り組みが加速した1年となった。本校活性化構想7年目になる次年度は高大連携や寮の改築が具体化される1年となることが予想される。地域のコミュニティスクールとしての役割も重要性を増す中で様々な連携を深め学校を活性化させる取り組みを充実させたい。教育内容とのマッチングを精査し効果の期待できる取り組みを積極的に進めたい。学校が活性化するためには教職員が健康で元気に働ける必要があり、そのためにも働き方改革を進め分掌配置や効率化と業務の平準化に取り組んでいきたい。</p>